

大地区Ⅱ 鷹取山山麓

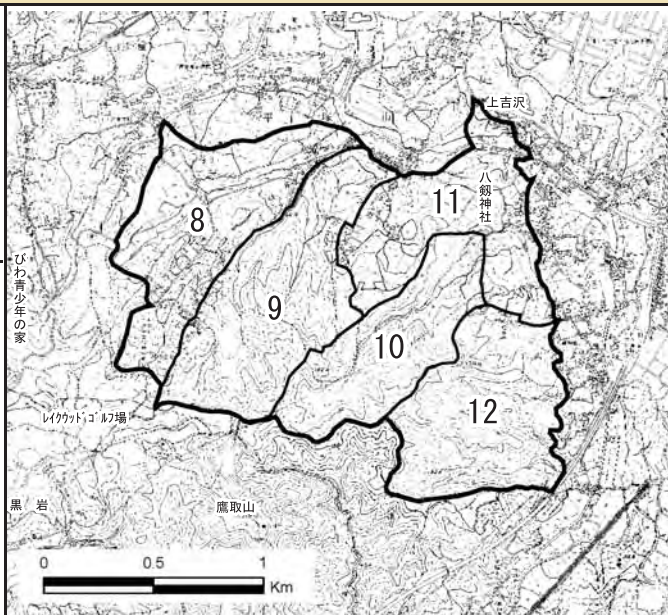
【評価】

	自然	場	緑の質	生物
総合	A	A	A	A
A	人とのかわり	景観	ふれあい	人文
	B	A	B	C




【地区位置】

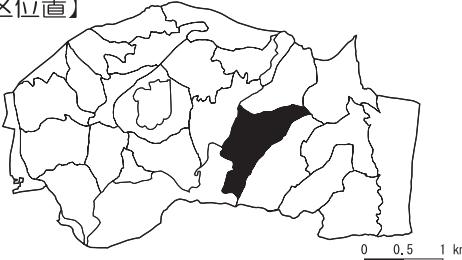
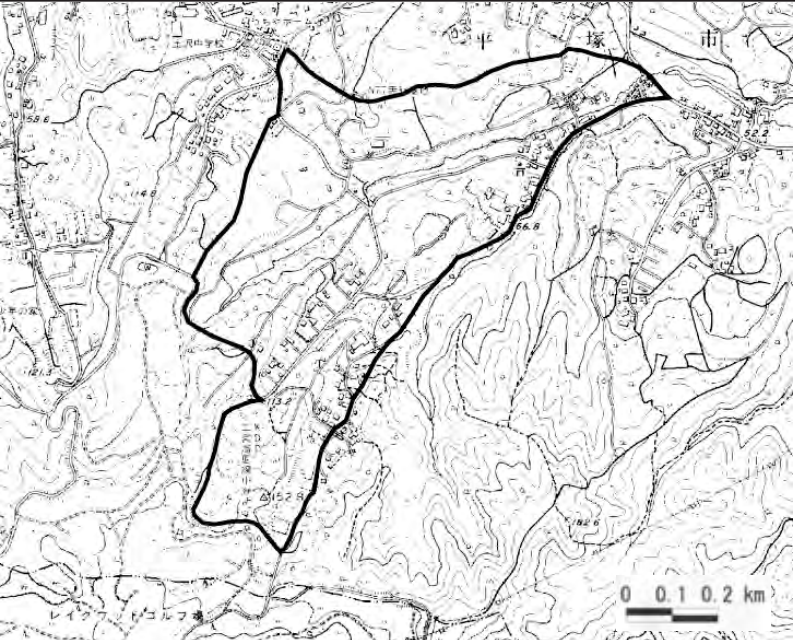


0 500 1000 m



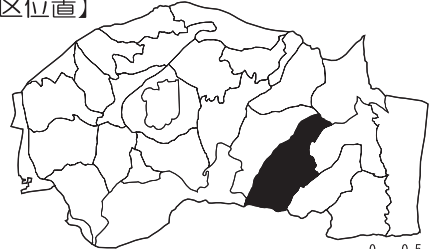
	内 容
総合評価	<p>鷹取山の山麓であり、調査地域の中でも特に良好な自然と景観がみられる。これを背景にして、主要な人とのふれあいの場となっている。里山らしさがよく残されている。</p>
自然評価 総合評価	<p>鷹取山山麓の起伏に富んだ斜面には二次林が広がっている。渓谷状の谷には、手つかずの清流が流下し、霧降りの滝やため池（吉沢の池）があり水環境は豊かである。</p> <p>樹林と水辺がセットで存在している環境を反映して、樹林、水辺の指標種が豊富に生息、生育している。</p> <p>座禅川上流域の里山的環境に対して、奥山を思わせる環境であり、調査地域の中でも特に良好な自然が残されている。</p>
人とのかわり 評価総評	<p>樹林を主体とする里山の景観がよく残されている。鷹取山の稜線は、地域の広い範囲から眺望できる。散策路が多く通過し、『平塚八景』に指定されている展望地点がある。自然観察場所としての利用もあり、主要な人とのふれあいの場となっている。</p> <p>道祖神、水神、保全樹、社寺、湧水、滝などの人文資源も多い。</p>

	内 容	
景 観	<p>里山景観要素の割合が96.8%と高く、里山の景観がよく残されている。樹林が61.1%と多く、畑地が27.9%である。</p> <p>地区内の鷹取山の稜線は、市域の79.1%から眺望できる。</p> <p>地区の23.1%が、地域外の都市景観が視界に入らない領域である。</p>	
ふれあい	<p>【散策路】『湘南ひらつかやすらぎ回廊』 （「川と緑のそよかぜロード」、「近未来のこもれびロード」、 「緑と文化の湘南丘陵の道」） 『関東ふれあいの道』</p> <p>【展望地点】『平塚八景』（「霧降りの滝、松岩寺」）</p> <p>【自然体験フィールド】なし</p> <p>【自然観察場所】 小地区9の東側から鷹取山に至る道、「緑と文化の湘南丘陵の道」を中心とした小地区10のほぼ全域、上吉沢の八剣（やつるぎ）神社や松岩寺周辺、小地区11の西側から鷹取山に至る道、下吉沢の八剣神社から松岩寺に至る道、松岩寺から霧降りの滝に至る道とその周辺が利用されている。</p> <p>【自然とのふれあい施設】なし</p>	
人 文	<p>【道祖神】 小地区8の『湘南ひらつかやすらぎ回廊』の「川と緑のそよかぜロード」の周辺、小地区9の北東側、八剣神社周辺と松岩寺周辺、松岩寺と八剣神社への分岐点に計9箇所ある。</p> <p>【水神】吉沢の池畔に2箇所、霧降りの滝に1箇所ある。</p> <p>【史跡】なし</p> <p>【保全樹】吉沢の池畔のくすのき、上吉沢の八剣神社のけやき</p> <p>【指定文化財】なし</p> <p>【社寺】正一位復興稲荷大明神、笠間稲荷、八剣神社、松岩寺</p> <p>【湧水】松岩寺裏の不老水</p> <p>【滝】霧降りの滝</p>	
		
05.9.16 撮影 緑と文化の湘南丘陵の道	05.12.9 撮影 八剣神社のけやき	05.7.21 撮影 吉沢の池

小地区 8																				
【地区位置】																				
【評価】																				
	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>自然</td> <td>場</td> <td>緑の質</td> <td>生物</td> </tr> <tr> <td>総合</td> <td>c</td> <td>c</td> <td>d</td> <td>c</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">b</td> <td>かかわり</td> <td>景観</td> <td>ふれあい</td> <td>人文</td> </tr> <tr> <td>b</td> <td>a</td> <td>c</td> <td>d</td> </tr> </table>		自然	場	緑の質	生物	総合	c	c	d	c	b	かかわり	景観	ふれあい	人文	b	a	c	d
	自然	場	緑の質	生物																
総合	c	c	d	c																
b	かかわり	景観	ふれあい	人文																
	b	a	c	d																
	内 容																			
総合評価	農地を主体とする自然と景観がみられる。人文資源は少ないが、人とのふれあいの場となっている。里山らしさがある程度残されている。																			
自然評価 総 評	畑地に囲まれた二次林が残存しており、鷹取山山麓の中核となる緑の緩衝帯(かんしょうたい)となっている。おもに、樹林と草地の指標種が生息、生育している。																			
人との かかわり 評価総評	農地を主体とする里山の景観がよく残されている。 散策路があり、人とのふれあいの場となっている。 人文資源は少ないが、道祖神、正一位復興稻荷大明神がある。																			
景 観	里山景観要素の割合が 89.1%と高く、里山の景観がよく残されている。畑地が 60.0%と多く、畑地に囲まれるように分布する樹林 22.4%がみられる。地区の 36.1%が、地域外の都市景観が視界に入らない領域である。																			
ふれあい	地区中心部を南西から北東に通る道が、『湘南ひらつかやすらぎ回廊』の「川と緑のそよかぜロード」に選定されており、地区の南西側のゴルフ場沿いの道が「緑と文化の湘南丘陵の道」および『関東ふれあいの道』に選定されている。																			
人 文	道祖神は、『湘南ひらつかやすらぎ回廊』の「川と緑のそよかぜロード」の周辺に2箇所ある。 お稲荷さまは、正一位復興稲荷大明神がある。																			

小地区 9

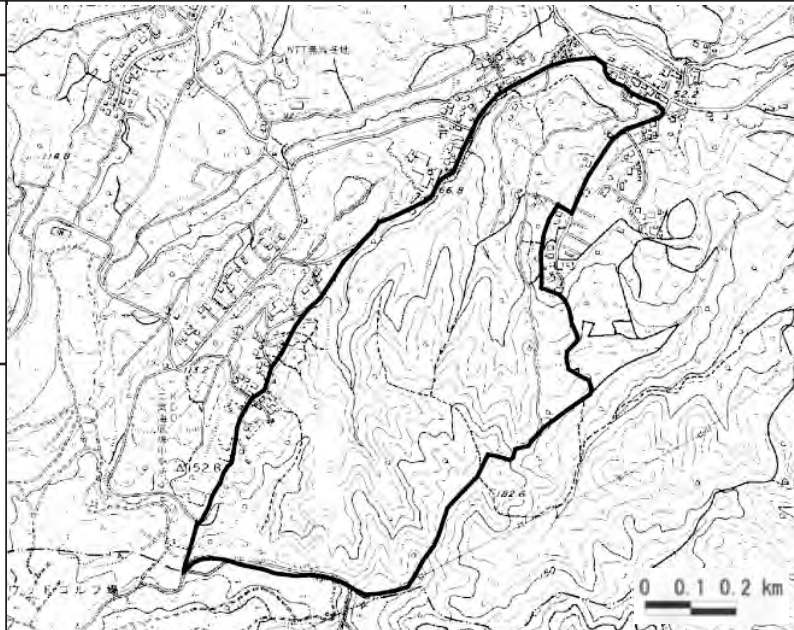
【地区位置】



0 0.5 1 km

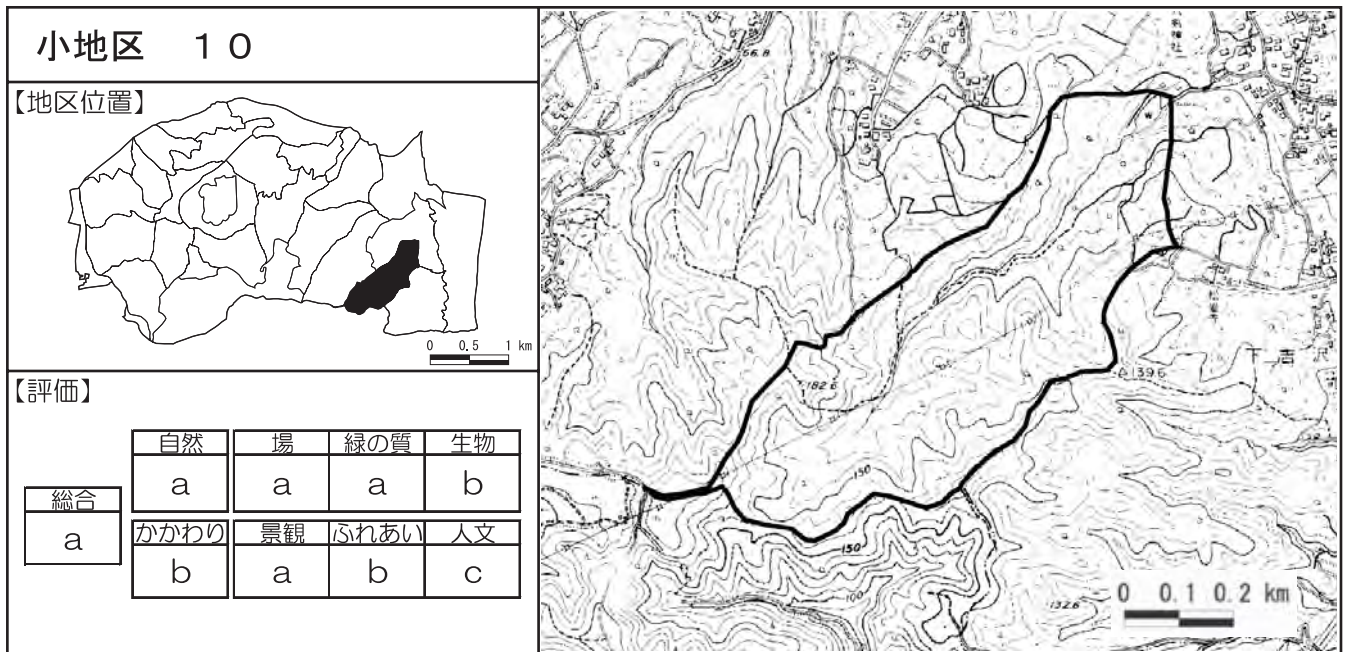
【評価】

	自然	場	緑の質	生物
総合	a	a	a	b
a	かかわり	景観	ふれあい	人文
	b	a	b	d

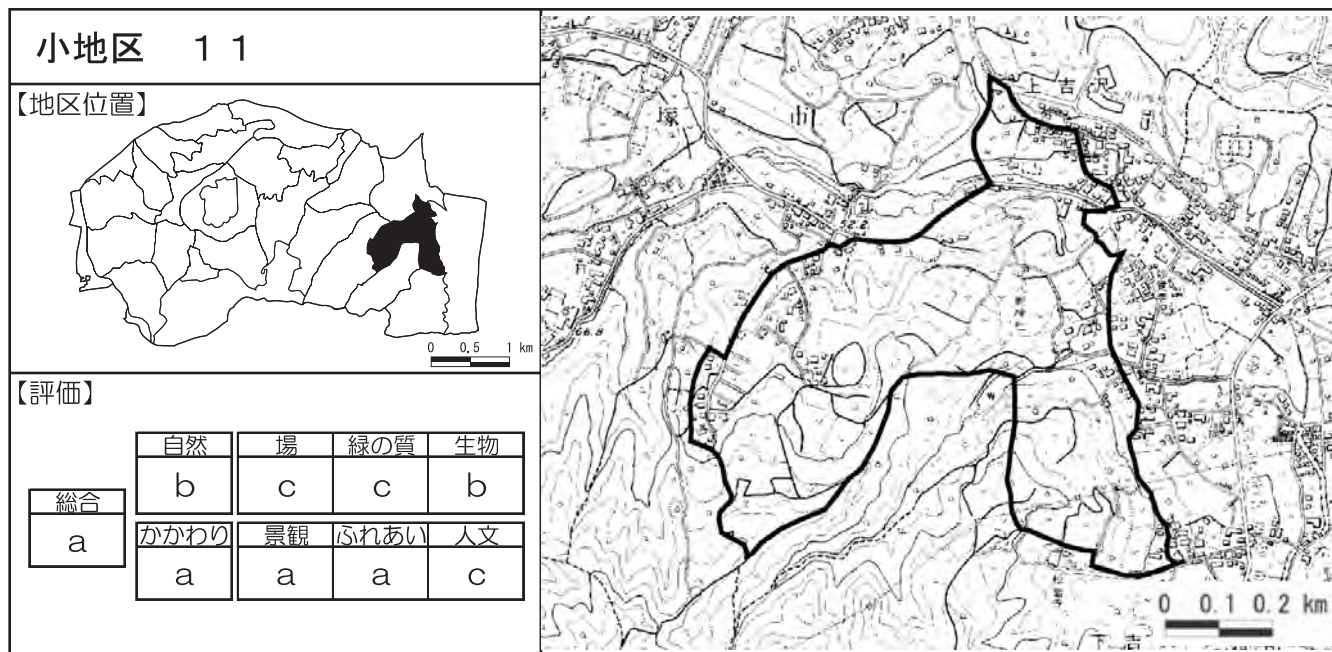


0 0.1 0.2 km

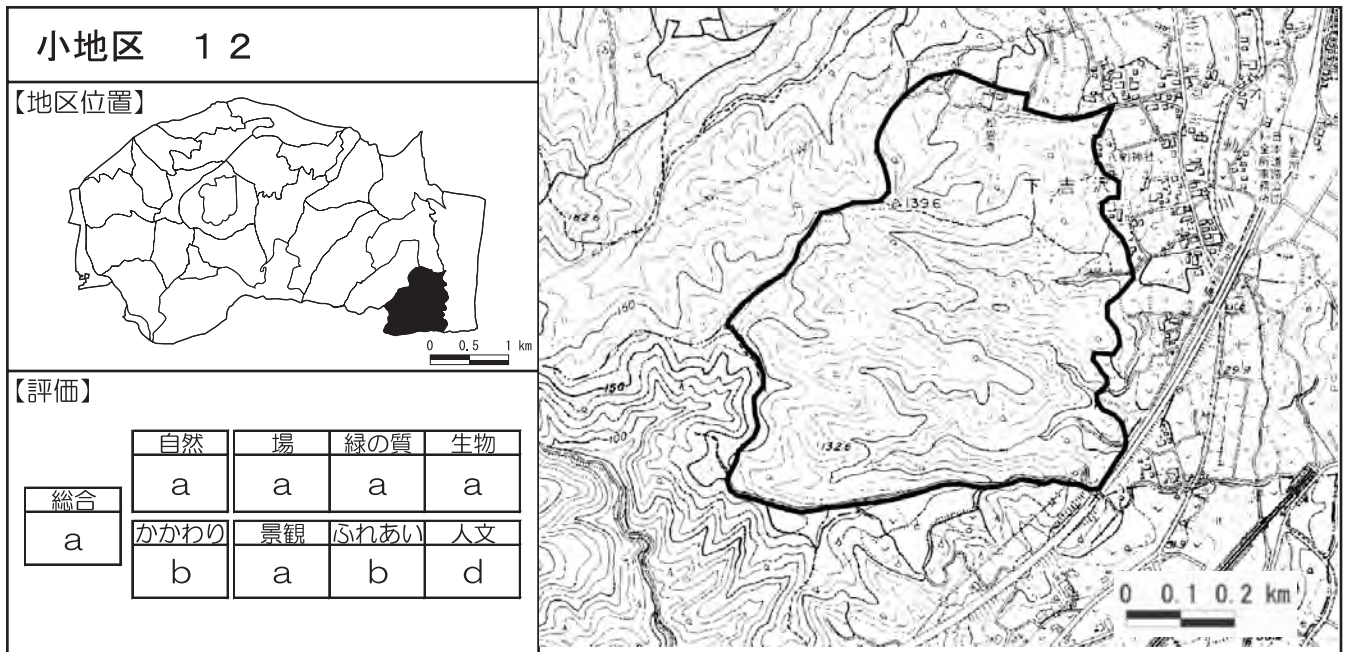
内 容	
総合評価	鷹取山の山麓であり、調査地域の中でも特に良好な自然と景観がみられる。これを背景にして、主要な人とのふれあいの場となっている。里山らしさがよく残されている。
自然評価 総 評	<p>鷹取山山麓の起伏に富んだ斜面に広大な樹林が広がり、地域の緑の中核となっている。</p> <p>斜面には、二次林が広がり、渓谷状の谷には手つかずの清流が流下している。樹林と水辺がセットで存在している環境を反映して、樹林、水辺、草地の指標種が生息、生育している。</p> <p>座禅川上流域の里山的環境に対して、奥山を思わせる環境であり、調査地域の中でも特に良好な自然が残されている。</p>
人との かかわり 評価総評	<p>樹林を主体とする里山の景観がよく残されている。鷹取山の稜線は、市域の広い範囲から眺望できる。</p> <p>散策路があり、地区の一部が自然観察場所として利用され、主要な人とのふれあいの場となっている。</p> <p>人文資源は少ないが、道祖神と笠間稻荷がある。</p>
景 観	<p>里山景観要素の割合が 99.8%と高く、里山の景観がよく残されている。樹林が 80.9%を占めている。</p> <p>地区内の鷹取山の稜線は、市域の 54.7%から眺望できる。</p> <p>地区の 25.9%が、地域外の都市景観が視界に入らない領域である。</p>
ふれあい	<p>地区北側のバス通りは、『湘南ひらつかやすらぎ回廊』の「川と緑のそよかぜロード」、霧降りの滝から鷹取山に至る道が、「緑と文化の湘南丘陵の道」、ゴルフ場沿いの道は、『関東ふれあいの道』に選定されている。</p> <p>自然観察場所は、地区東側から鷹取山に至る道とその周辺が利用されている。</p>
人 文	<p>道祖神は、集落がまとまって存在する地区の北東側に3箇所ある。</p> <p>お稲荷さまは、地区の北東側に笠間稲荷がある。</p>



	内 容
総合評価	<p>鷹取山の山麓であり、調査地域の中でも特に良好な自然と景観がみられる。これを背景にして、主要な人とのふれあいの場となっており、地域のシンボルともいえる霧降りの滝もある。里山らしさがよく残されている。</p>
自然評価 総合評価	<p>鷹取山山麓の起伏に富んだ斜面に広大な樹林が広がり、地域の緑の中核となっている。</p> <p>斜面には、二次林が広がり、渓谷状の谷には手つかずの清流が流下している。樹林と水辺がセットで存在している環境を反映して、樹林、水辺、草地の指標種が生息、生育している。</p> <p>座禅川上流域の里山的環境に対して、奥山を思わせる環境であり、調査地域の中でも特に良好な自然が残されている。</p>
人との かかわり 評価総評	<p>樹林を主体とする里山の景観がよく残されている。鷹取山の稜線は、市域の広い範囲から眺望できる。</p> <p>自然散策路があり、地区のほぼ全域が自然観察場所として利用され、主要な人とのふれあいの場となっている。</p> <p>水神、保全樹、霧降りの滝などの人文資源がある。</p>
景 観	<p>里山景観要素の割合が99.9%と高く、里山の景観が残され、樹林が87.9%を占める。地区内の鷹取山の稜線は、市域の74.4%から眺望できる。</p> <p>地区の16.5%が地域外の都市景観が視界に入らない領域である。</p>
ふれあい	<p>バス通りから松岩寺、霧降りの滝を通り鷹取山に至る道が、『湘南ひらつかやすらぎ回廊』の「緑と文化の湘南丘陵の道」に選定されている。</p> <p>霧降りの滝が、『平塚八景』のうちの「霧降りの滝、松岩寺」に選定されている。</p> <p>自然観察場所は、『湘南ひらつかやすらぎ回廊』の「緑と文化の湘南丘陵の道」を中心に地区のほぼ全域が利用されている。</p>
人 文	<p>水神は、吉沢の池畔に2箇所、霧降りの滝に1箇所祀られている。</p> <p>保全樹は、吉沢の池畔にくすのきがある。</p> <p>滝は、落差約10mの霧降りの滝がある。</p>



内 容	
総合評価	畑地、樹林、集落が近接した自然と景観がみられる。主要な人とのふれあいの場となっており、人文資源もある。里山らしさがよく残されている。
自然評価 総評	畑地に囲まれて二次林が残存しており、鷹取山山麓の中核となる緑の緩衝帯となっている。小規模な谷戸も残されており、樹林、草地、水辺の指標種が生息、生育している。鷹取山の奥深い樹林域を縁どる良好な里山の自然が残されている。
人との かかわり 評価総評	畑地、樹林、集落が近接した里山の景観がよく残されている。 散策路があり、広い範囲が自然観察の場として利用され、主要な人とのふれあいの場となっている。 道祖神、保全樹、八剣神社などの人文資源がある。
景 観	里山景観要素の割合が 96.2%と高く、里山の景観がよく残されている。畑地が 56.0%と多く、その他、樹林 25.7%、古くからの集落の住宅地 11.2%などがみられる。 地区の 3.7%が、地域外の都市景観が視界に入らない領域である。
ふれあい	松岩寺から霧降りの滝に至る道が、『湘南ひらつかやすらぎ回廊』の「緑と文化の湘南丘陵の道」、地区北側のバス通りが、「川と緑のそよかぜロード」に選定されている。また、地区北側の一部が、「近未来へのこもれびロード」に選定されている。 自然観察場所は、上吉沢の八剣神社や松岩寺周辺、地区西側から鷹取山に至る道とその周辺が利用されている。
人 文	道祖神は、八剣神社周辺と松岩寺周辺に3箇所ある。 保全樹は、八剣神社にけやきがある。 社寺は、上吉沢地区の鎮守である八剣神社があり、八坂神社が合祀されている。



内 容	
総合評価	<p>鷹取山の山麓であり、調査地域の中でも特に良好な自然と景観がみられる。人文資源は少ないが、主要な人とのふれあいの場となっている。里山らしさがよく残されている。</p>
自然評価 総評	<p>鷹取山山麓の起伏に富んだ斜面に広大な樹林が広がり、地域の緑の中核となっている。斜面には、二次林が広がり、渓谷状の谷には手つかずの清流が流下している。樹林と水辺がセットで存在している環境を反映して、樹林、水辺、草地の指標種が生息、生育している。</p> <p>座禅川上流域の里山的環境に対して、奥山を思わせる環境であり、調査地域の中でも特に良好な自然が残されている。</p>
人との かかわり 評価総評	<p>樹林を主体とする里山の景観がよく残されている。鷹取山の稜線は、市域の広い範囲から眺望できる。</p> <p>散策路があり、広い範囲が自然観察の場として利用され、主要な人とのふれあいの場となっている。</p> <p>道祖神、松岩寺、湧水などの人文資源がある。</p>
景 観	<p>里山景観要素の割合が99.8%と高く、里山の景観が残され、樹林が90.1%を占める。地区内の鷹取山の稜線は、市域の62.4%から眺望できる。</p> <p>地区の29.3%が、地域外の都市景観が視界に入らない領域である。</p>
ふれあい	<p>松岩寺から霧降りの滝に至る道が、『湘南ひらつかやすらぎ回廊』の「緑と文化の湘南丘陵の道」に選定されている。</p> <p>松岩寺が、『平塚八景』のうちの「霧降りの滝、松岩寺」に選定されており、平塚の市街地や江ノ島、三浦半島が眺望できる。</p> <p>自然観察場所は、下吉沢の八剣神社から松岩寺に至る道、松岩寺から霧降りの滝に至る道とその周辺が利用されている。</p>
人 文	<p>道祖神は、松岩寺と八剣神社への分岐点に1箇所ある。</p> <p>社寺は、曹洞宗の修行道場として名高い松岩寺がある。</p> <p>湧水は、松岩寺の境内に不老水があり、干ばつ時にも水枯れしないという。</p>

地名の由来

西部丘陵地域の地名の由来を紹介します。古い地名は、もともとの意味に漢字をあてはめることもあり、漢字の意味がそのまま昔の状況をあらわすとは限らないようです。

- 吉沢（きさわ）：木沢「木がよく茂る沢」が由来と考えられています。
万葉時代には「幾津佐波」その後は「橘沢」と書いたそうです。
- 遠藤原（えんどうはら）：住居より遠く離れた野原の意味であると考えられます。
- 七国峠（ななくにとうげ）：甲斐、駿河、伊豆、相模、安房、上総、武蔵の国の7箇国が遠望できることから名付けられたと考えられます。現在は、見晴らし台を兼ねた長兵衛茶屋跡があります。
- 琵琶（びわ）：地形が、楽器の琵琶に似ていることから名付けられたと考えられます。
- 早田（そうだ）：湿草地のちょっとした窪みを「ソウタ」といいます。つまり、丘陵と丘陵の間の谷間にある地区を意味すると考えられます。
- 人増（ひとふえ）：早田地区と同姓の家が多い地区で、その昔、早田からこの地に移住したともいわれています。「この地に人を増やすため」という意味で、この地名が付いたと思われます。
- 座禅川（ざぜんがわ）：由来ははっきりしませんが、その昔、僧侶がこの川のどこかで修行のため、座禅や水行を行っていたと思われます。
- 杜鵑山（とけんやま）：杜鵑とはホトトギスの漢名です。かつて、この山には多くのホトトギス（鳥）が生息していたので、杜鵑山と呼ばれたものと思われます。
- ふじ山：大寺分にある標高86mの山で、ここから眺める富士山は格別すばらしいところから、ふじ山と呼ばれたと思われます。
- 鷹取山（たかとりやま）：昔、徳川家康が鷹狩りに来て、ここで羽を損じた鷹を捕えたことに由来するといわれています。